

# 自ら評価の対象案件候補の募集に関する意見交換会

詳しくは <http://www.fsc.go.jp/fsciis/meetingMaterial/show/kai20100730ik1>

7月30日(金)、食品安全委員会において食品安全委員会が自ら行う食品の安全性に関するリスク評価(自ら評価)の募集に関する意見交換会を開催しました。これは、今年度より「自ら評価」の対象案件を選定するにあたり、広く国民の皆様から案件候補を募集するとして受けてのリスクコミュニケーション活動の一環です。意見交換会には、26名の方にご参加いた

ぎ、まず事務局から概要及び案件候補募集の趣旨について説明を行った後、参加者から自ら評価の案件選定の考え方や評価結果の活用事例等の質問を受け、具体的な案件候補のご提案もいただきました。案件候補については8月9日(月)まで提案募集を行いました。なお、最終的な案件候補については委員会の決定を経て、来春には公表される予定です。

## サイエンスカフェ—第5話・第6話

詳細 ▶ [http://www.fsc.go.jp/koukan/dantai\\_jisseki.html](http://www.fsc.go.jp/koukan/dantai_jisseki.html)

東京銀座で午後6時半から始まり、お勤め帰りの方も気軽にご参加いただき、直接食品安全委員会委員が疑問におこたえるサイエンスカフェシリーズ。7月5日(月)の第5話は「誰でもなる!?食中毒を防ぐ調理を考える」(スピーカー: 畑江敬子委員)、9月9日(木)の第6話は「科学の目で見ると食中毒~どうしてなるの?~ならどうなるの?」(スピーカー: 小泉直子委員長)を開催しました(主催: 食品安全委員会/群馬県)。

まず、スピーカーから、スライドを使って、30分程度の話題提供の後、参加者の皆さんとの質疑応答です。「昔に比べてカンピロバクターの食中毒が多くなっているのは、食生活が変化したから?」「食中毒と感染症の区別は?」など様々な疑問や意見が熱心に交わされました。



## 食品のリスクを考えるワークショップ(岡山県備中地区)

詳細 ▶ <http://www.fsc.go.jp/fsciis/meetingMaterial/show/kai20100820ik1>

8月20日(金)岡山県倉敷市において食品のリスクを考えるワークショップを開催しました(主催: 食品安全委員会/岡山県)。参加者は23名、テーマは「食肉の生食による食中毒発生のリスクについて」です。まず事務局より、カンピロバクターのリスク評価などの情報提供を行った後、参加者全体で質疑応答を含めた意見交換を行いました。

「生食という文化を大切に

しながら、食中毒のリスクとうまく付き合う方法はないのか?」「カンピロバクターに汚染されている肉を提供してはならないという規制はできないのか?」など様々な疑問や意見が出されました。その後のグループワークでは、生食による食中毒リスクを減らすために「食を取り巻く生産、加工、流通等の各関係者に期待すること」や「自分ができること」についてグループごとに整理しました。

## 夏休み子ども企画「ジュニア食品安全委員会」(東京)

詳細 ▶ <http://www.fsc.go.jp/koukan/junior2208/junior-tokyo2208.html>



8月20日(金)、毎年恒例の「ジュニア食品安全委員会(東京)」を開催しました。

参加者はホームページ等でご応募いただいた小学校5・6年生14名とその保護者です。

子どもたちは、小泉直子食品安全委員会委員長より「ジュニア食品安全委員会委員」に任命された後、「食品の安

全はだれがまもるの?」をテーマに、クイズに答えたり、その解説を聞いたりして、楽しく食の安全に関する知識を深めました。

当日は、テレビをはじめ新聞等メディアの取材もありましたが、さすがジュニア委員だけあり、インタビューの受け答えもとてもしっかりしていました。

## 食品のリスクを考えるサイエンスカフェ(愛知県岡崎市)

詳細 ▶ [http://www.fsc.go.jp/koukan/dantai\\_jisseki.html](http://www.fsc.go.jp/koukan/dantai_jisseki.html)

8月31日(火)、愛知県岡崎市において、40名の参加者を迎え「農産物の安全性を考える~農薬が基準の2倍検出された食品は危険か安全か?」をテーマにサイエンスカフェを開催しました(主催: 食品安全委員会/愛知県/岡崎市)。

まず、東海コープ事業連合商品管理本部検査センター長の斎藤勲氏より、スライドを使って、農薬の残留基準とADI(一日摂取許容量)の関係や農薬の残留状況などにつ

いての話題提供の後、参加者の皆さんから、疑問や意見を自由に「質問カード」に書いて出させていただきました。「食品の残留農薬検査はどのようにするのか?」「日本でも残留基準値超過時にARfD(急性参照用量)と比較することはされているのか?」など、熱心な雰囲気で見意見交換が行われました。